

～高井几董 「井華集」より・・

### 鶯の訛かはゆき若音かな

笹鳴きから少しホーホケキョらしくなってきた鶯の鳴き方を  
「なまり」ととらえた。  
「なまり」と言ったことで愛らしい鳴き声が、  
そこに聞こえるような錯覚を覚える。

### 元日の酔わびに来る二月かな

よほど親しい仲なのだろう。  
元日に酔っぱらって悪態をついて帰った。  
普通なら足が遠退くのだが、二月に入ると、  
わびに来たといって顔を出す親しさ。  
几董は「酒無ければ句なし、句を得て又飲をたのしとす」  
と言われ大変な酒豪だった。

### むら燕牛の股ぐら潜りけり

よくある田園風景だが牛の股ぐらと言ったところが可笑しい。  
普通なら憚る表現だが、燕の巧みな飛び方をほめているため  
句としての雅味がある。